

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
371	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Differences in cardiovascular disease risk factors between Japanese in Japan and Japanese-Americans in Hawaii: the INTERLIPID study 日本在住日本人とハワイ在住日系アメリカ人における循環器疾患危険因子の相違 : INTERLIPID 研究	
<b>執筆者</b> H Ueshima, A Okayama, S Saitoh, H Nakagawa, B Rodriguez, K Sakata, N Okuda, SR Choudhury and JD Curb for the INTERLIPID Research Group	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Journal of Human Hypertension. 2003 ; 17:631-639	
<b>キーワード</b> 血圧、冠動脈疾患、食事、血清脂質、喫煙、一般集団研究、日本人、日系アメリカ人	
<b>要旨</b> (背景・目的) 日本人はコレステロール値が増加しており、喫煙率や高血圧の頻度が高いにも関わらず、冠動脈疾患の罹患率や死亡率はアメリカや他の西洋諸国と比べて全ての年代で明らかに低い。この差を理解するために、日本国内の日本人とハワイ在住であり西洋的な生活習慣をもつ日系アメリカ人 3 世、4 世について、INTERMAP の関連研究として、循環器疾患の危険因子や食習慣の比較を行った。	
(方法) 日本人男性 574 人、女性 571 人、ハワイ在住日系アメリカ人男性 136 人、女性 131 人の 4 グループの 40-59 才の男女について、両方で標準化された方法で調査を行った。	
(結果) 平均収縮期血圧および拡張期血圧は男性で日系米人より日本人が有意に高かった。女性では有意な相違は見られなかった。高血圧治療率は日系米人より日本人が著しく低かった。日本人男性では日系米人より喫煙率が顕著に高かった。飲酒率は男女共に日系米人より日本人が有意に高率であった。脂肪摂取量、Keys の脂質摂取スコア、飽和脂肪酸摂取量は日系米人よりも日本人で低かった。ボディマスインデックス、血清総コレステロールおよび HDL コレステロール、HbA1c、フィブリノーゲンは日系米人より日本人が有意に低かった。不飽和多価脂肪酸/飽和脂肪酸比と $\omega$ 3 脂肪酸摂取は日系米人より日本人が有意に高かった。	
(結論) いくつかの循環器疾患に関する危険因子、特に脂質のレベルは、一般的に日系米人より日本人の方が低かった。これらの相違は、男性と比較して女性では小さかった。このことは他の先進工業国より日本の循環器疾患の罹患率や死亡率が低いことを部分的に説明している可能性が示唆された。	